

神奈川県民医連・震災支援ニュース

NO.35 2011年4月7日 神奈川県民医連事務局発行 電話 045-320-6371 kenren@kanamin.or.jp

いま、医療生協の精神が試されるとき…

～避難者炊き出しボランティアに参加して～

「ボランティアに参加しないか」の電話

3月20日早朝、家の電話が鳴りました。「等々カアリーナに福島からの避難者の方がみえるので、炊き出しのボランティアに参加してくれないか？」と。11時頃に現地に行くと、屋外でドラム缶にガスボンベなどを使って、カレーを作っているではありませんか。水道はアスレチック遊具に設置されている手洗い場だけです。お皿やスプーンなどもすべてボランティアの持参品でした。いったい行政は何をしているのでしょうか？

材料が足りない！！



当初の受け入れ予定は68名でしたが、どんどん増えていき最終的には100名近い人数となっていました。準備していた材料だけでは人数分をまかなうことが出来ません。とりわけ、カレールーが全く足りない。急遽、買出しに出かけましたが、何件お店を回ってもうっていない。結局、小箱一個しか買うことが出来ませんでした。「こんなものまで買占め？エッー！」です。

命があっただけでも…

そうこうしている間に、生協組合員でもある市会議員の市古さんや大場さんの尽力で、アリーナの食堂が開放されることになり、福島の方々が暗い面持ちで続々と入ってこられました。私たちの顔を見て、「命があっただけでもマシ」と涙ぐまれ、「ありがとう」と深々と頭を

下げられる方もいらっしゃいました。

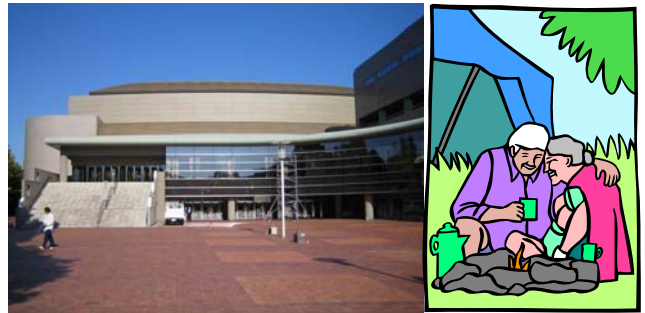
津波にあって、家族で避難した福島でも原発の影響でいることが出来ず、自動車でも那須塩原まで何とかたどり着いたが今度はガソリン切れ。やっとの思いで新幹線に乗り、川崎までたどり着いたという方もいらっしゃいました。

私たちに出来ることを考える

2歳くらいの女の子を連れて若いお母さんに「大変でしたね」と声をかけると、「家も荷物も全部置いてきた。これからどうすればよいか分からない」と力なく話され、私は次の言葉につまってしまいました。私たちは、これからどのようなことが出来るのかを考えるべきではないでしょうか？

『1人はみんなのために、みんなは1人のために…』医療生協の精神が試されるときではないかと考えます。

川崎医療生協 小杉支部支部長 石川のり子さん



全日本民医連からの支援物資定期発送の終了について

全日本民医連は4/2に緊急理事会を開催し、4月以降の新たなステージでの支援方針を確認しました。支援物資についても、今後の方針に沿った形の支援に切り替わります。

これまで全日本民医連に集中した物資は、週2回の定期便トラック2台で宮城、福島、盛岡に届けられてきました。今後は、すでに全日本民医連宛に物資リストを送られた分(3/29付全日本民医連発ア号通達427号に基づいて物資集中したもの)までで、全日本民医連からの定期便は終了となります。よろしく願いいたします。(詳しくは4/6付全日本民医連発ア号通達439号をご覧ください)